

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成29年8月17日(金) 開 会 午後 3時30分
閉 会 午後 5時30分
2. 会 場 茅野市役所 704会議室
3. 出席者 市長 柳平千代一 教育委員長 山田 利幸
職務代理者 矢崎 靖雄 教育委員 小林 智
教育委員 小林 俊恵 教育委員 小平 光子
出席職員 生涯学習部長 平出 信次 こども部長 牛山津人志
学校教育課長 有賀 淳一 スポーツ健康課長 鋤柄 敏
幼児教育課長 五味留美子 こども課長 五味 健志
文化財課長 守矢 昌文 公民館長 矢島喜久雄
教育総務係長 渡辺 雄一 こども係長 今井 明彦
企画戦略係長 原田 和樹 教育総務係長 渡辺 雄一
教育総務係主事 丸茂 直樹
4. 傍聴者 1名

茅野市総合教育会議次第

平成29年8月17日（金）午後3時30分
茅野市役所 7階 704会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 今年度これまでの取り組みについて

(2) 将来的な見通しについて

(3) その他

4 閉 会

学校教育課長

ただ今から、茅野市総合教育会議を開催いたします。茅野市総合教育会議運営要綱6条に基づき今日の会議を公開として始めたいと思います。

はじめに、市長から挨拶をお願いします。

市長

本日は茅野市総合教育会議にご参集いただきありがとうございます。

最近の教育行政を見ていると目まぐるしく変化しており、社会環境もそれだけ変化していることに他ならないと思います。何のために教育するのか、ひとえに生きる力を育むため、生きるためにさまざまなことを体験し経験し学習して学んでいくというのが教育だろうと思っています。ですから世の中の仕組み・取り組みが変わればその状況に併せて生きていくために何をしなければいけないか、自ずと変わって当たり前だと思います。しかし同時に人間として昔から変わらない教育の原点もあるのだろうと思っています。いかにバランスよく取り入れていくか、今の教育は大変な状況にあるように常々思います。

今日の会議でさまざまな課題について具体的に意見交換することで、その裏にある根源的な取り組みに茅野市はどのように対処していくか等の意見交換も出来れば、と思います。

どうぞよろしく願いいたします。

学校教育課長

ありがとうございました。

それでは議事に移ります。進行役は柳平市長にお願いいたします。

各課長

【平成29年度のこれまでの主な取り組みについて説明】

資料説明（資料1）

《主な取り組み》

こども課

【ファミリー・サポート・センター事業】

【要保護児童対策地域協議会】

【発達支援センター事業】

【第3次茅野市こども・家庭応援計画(第3次どんぐりプラン)の策定】

幼児教育課

【職層別保育士（園長・主任・中堅・新任・乳児未満児）研修の実施】

【茅野市保育園管理計画に基づく整備の推進】

【給食調理業務委託の調理員の処遇改善】

学校教育課

【小中一貫教育の推進】

- 【学習指導要領改正による移行措置に伴う小学校英語教育の実施】
- 【ICT教育の推進】
- 【コミュニティスクールの推進】
- 【学校施設長寿命化計画の策定】

生涯学習課

- 【図書館の開館時間の延長】
- 【茅野市・ロングモント市姉妹都市交流事業】

公民館

- 【「発掘・保存・活用」を視点にしたお宝マップ作りを各分館に提案】
- 【公民館と学校等との連携】
- 【若者向け講座「わかもの放課後倶楽部」の開講（2年目）】

文化財課

- 【国史跡尖石遺跡の保存管理計画の実施】
- 【国史跡駒形遺跡、追加指定地の公有地化の実施】
- 【八ヶ岳総合博物館の活動の充実】

スポーツ健康課

- 【運動公園の施設整備、補修を計画的に実施。本年度は、陸上競技場器具庫設置、小学生ハードル・運搬車購入、プール深井戸水中ポンプ取替工事等を実施します】
- 【スポーツ活動充実のため、健康増進と体力づくり、元気なまちづくりの一環として各種大会を開催】

市長

以上で今年度の各課の取り組みの説明が終了いたしました。
小中一貫教育・英語教育・ICT教育等については後で意見交換いたします。
ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ありましたらご発言をお願いいたします。

市長

公民館のお宝マップ作成で、子ども会育成会やPTAと連携して非常にいいと思うが、昔の色々なことを知っているお年寄りが話をしてくれるような機会がありますか。

公民館長

なかなか世代間交流がないのですが、今回おこなってみてお年寄りのお話を子どもたちが一生懸命聞いてくれることがよく分かったので、このようなことを仕掛けていくのも必要ではないかと、携わって感じました。ただそういった機会があるかということなかなか無いです。

市長

色々知っているお年寄りが少なくなっている。子どもたちの参加も大切だが、お年寄りがお元気なうちにお話を聞く機会を意識的に作っていかないと次に伝わっていかないとと思う。

公民館長

湖東新井でマップを作ったのですが、区の会か高齢者クラブのほうでとても盛り上がったと聞きましたので、そういった良い事例を提示して仕掛けていくように考えています。

市長

高齢者の方を引き込んでいただければ、と思います。

矢崎委員

お宝マップのことですが、「ふるさと文化を語る会」という会がありまして、学校のお宝を発掘しよう、とまとめました。色々な芸術家の作品が学校にたくさん残っていて、それをまとめるように連携して、茅野市の学校のお宝にしても地域のお宝にしても公民館のほうでまとめてもらえるといいと思いました。

市長

他にありますか？またお気づきになりましたらご発言をお願いいたします。

では後に回しました2点についてですが、小中一貫教育が始まってさまざまな成果と課題がありますが、小中一貫教育の課題とこれからの展望について、そのあと英語教育でアキ先生をお招きした効果についてももう少し掘り下げたいと思います。よろしくをお願いいたします。

小中一貫教育について事務局から報告してください。

学校教育課長

口頭になりますが、もう少し詳細な課題の報告・検討をしたいと思います。

具体的な手法として、豊かな学び合い学習を通じた小中学校での授業間の共有、それから中学校区の教育目標に基づいた学校計画の策定、9年間を通じたカリキュラムによる授業、中一ギャップの解消も1つの課題であります。

これまでの成果としましては5点ほどありますが、1つは児童間の交流の推進です。すでに新聞等でも報道されていますが、一例を挙げますと永明中学校の生徒が米沢小学校の入学式にお手伝いに行ったり、永明小学校に吹奏楽を派遣したりといったこと、中学生が小学校に出かけて読み聞かせをしたり、また、文化祭・音楽会へ招待する、東部中学校では交流集会というような形で中1と小6が集まって交流する、こういった交流が順調に進んでおります。

また子どもたちだけでなく、教職員間の交流の推進ということで2点目、これも一例を挙げれば校長会などで中学校区の話し合いの時間を確保して情報共有をしていく、あるいは職員会ですが合同の職員会議の実施ということで、年度初めや期末ごとに行っています。

また学校区園ごとに各部会を設置して、例えば生徒指導部会であるとか教科指導部会であるとか課題に即した事柄を話し合うようにしています。

もう1つは研修に関するのですが、小中一貫推進計画に基づいた研修会・研究会等の実施が年間25回計画されており、一学期に12回実施されております。

豊かな学び合いによる授業の推進ですが、こちらは授業のスタイルは小中学校で一貫しているということ、先行して実施していた部分もあり、すでに中学校でも体験している子どももおりますので、中学に行っても戸惑うことはありません。

それから、9年間を通じたカリキュラムを作成しておりますので、授業の進度に先生方が困るということはありません。

このような中で嬉しいこととして、6月2日に県の教育長さんが全学校訪問された際に、茅野市の学校訪問で児童・生徒の授業を受ける態度がとてもいい、という感想を持たれたそうです。こういった豊かな学び合いのスタイルや小中一貫教育の土台になる読書教育などが有効なのではないか、との感想をいただいて非常にありがたかったです。

今後の課題ですがすでにいくつかありまして、5点ほど挙げられています。

1つは中1ギャップの解消ですが、これは小中一貫教育により解消されていくだろうといったものではなく今後の流れによりますので、来年度以降の結果によるだろうと思います。ただ年度による差異がありますので、何年ごとに、と分析するのではなくて、長期間の傾向としてどのように表れるかを分析することが必要になるのではないかと考えます。

それから小中学校間あるいは小学校間の交流ですが、交流が非常に活発になってきておりますが、その中で現場サイドからすると足の確保が非常に難しい。近い学校はいいのですが遠い学校はスクールバス等を利用して行っても、スクールバス利用には限度があるということで、なかなか代用には対応できないでいます。それを補う施策としてICTテレビ会議システムによる交流の実現も考えられるのですが、やはりICTだけでは限定的になってしまうだろうという点が危惧されます。

また豊かな学び合い学習を経る授業デザインの方向性ですが、形としてはできていると思いますが、形だけではなく授業の内容としての捉え方を教員間でどのように共有するかといったところまで踏み込んで検証する必要があるのではないかと思います。

もう1つ教科担任制の問題がありますが、どこまで可能かが懸念される場所です。規模の小さな学校では先生方が揃わないといった問題があるので、単元ごとにおこなってみるなど考えていかなければならないかと思います。

小中一貫教育の計画の中でも主構文として実行するとは謳っていないのでどこまでできるかは分からないのですが、以前たまたまテレビ会議システムで英語の教育を中学校の先生がして、泉野小学校と玉川小学校で授業を受ける形で行ったのですが、そういった形も有りではないかと考えております。

そして、やっていく中での土台の1つとして、教職員の多忙化をどうやって解消していくか、例えば部活動の指導員のような専門スタッフを配置して住み分けをすることなどしていかないと先生たちに余裕が生まれてこないのではないかと思います。小中一貫教育については以上です。

市長

教育長のほうから何か追加ありますか。

山田教育長

一番の成果と言えるのは子どもたちの学びの姿勢が非常に良くなってきたということで、県の教育長が訪問した際にどの中学校に行ってもその光景に驚かれました。給食や清掃の時間を見ていただき、授業における小中一貫性のなかで子どもたちが育っているというのを感じていただいたと思っています。

教員の多忙化の解消ですが、業務改善と関連させて考えていかなければと思います。

市長

小中一貫教育の成果と課題について、これについて意見交換していきたいと思います。今何かお気づきの点等あればお願いいたします。

小林委員

課題として出ていた中で、交流する時の移動の足の問題にどこの学校も苦労していると感じました。私自身も子どもがいるのですが、金沢小学校と宮川小学校の交流をしようとした時に距離があって交流しづらい、茅野高・長峰中・宮川小の3校で御柱街道の清掃をしていますが、そういった所に金沢小の児童を連れていきたいと先生からお聞きしたことがあります。ICTの活用のお話がありましたがそれだけでは補えない部分もあるかと思っています。この部分はかなりハードルが高いかと感じます。

学校教育課長

今年各小中学校に対してこういった新規事業の実施計画を考える前に、学校として要望を挙げてほしいと伝えました。その中でやはりバスを通学区ごと配置してほしいと要望が出ました。それだけ学校のほうでは切実なのだと思います。

これについては、たまたま茅野市が県の中山間地域における学び検討プロジェクトの委員になっております。その中で中山間地の問題として茅野市は小中一貫教育の括りなのですが、中山間地の小規模校であるが故に他地区の学校との交流という時に、足の確保が非常に問題になってきます。

山田教育長

テレビ会議も有効なのですが直に顔を合わせるのも必要で、各学校の交流も盛んになってきていますし、足の確保が課題で何らかの予算がほしいところです。

市長

足をどのように確保するかは課題は、この授業とこの授業はテレビ会議システムでおこなうというピックアップ、実際に顔を会わせて交流する必要性のリストアップをして予算要求する、という流れだと思う。

小林委員

玉川小学校や宮川小学校などの大きい学校の児童が、冬に金沢小学校の天然リンクでスケート体験をするのも面白いと思います。

市長

足の確保の件で他にご意見ありますか。他のことでも、先ほど子どもたちの学ぶ姿勢が良いという話もありましたが。

山田教育長

1つは豊かな学び合いという形で友と共に学び合っている、もう1つは縄文科の影響があると思います。既成の知識を学ぶのではなく、自分たちで新たなものを創り出していくのが生きる力だと思います。そういう学習を積み重ね出したということが落ち着いた学びに通じてきたと思います。昨年までの数値は誇れるものだと思います。

市長

他はどうですか。

矢崎委員

教師の負担軽減の件ですが、茅野市の場合はどうなっていますか。

山田教育長

部活指導については中学校の先生は約70時間超、この数字は県よりやや少ないです。週幾日か部活を行わない・休日の部活の時間制限をおこなっています。ただこれ以上は減らないので、県は大町市の学校をモデル校にして新しい部活のあり方を検討中です。近々報告が出る予定です。外部講師をお願いするにしても大町での結果を見てからになると思います。現状ではこの70時間はこれ以上減らせません。

それから県の中体連と話をしているのですが、種目によっては学校単位での参加しか認めないので、無理して子どもを集めて参加している状況ですので、県の方と話をしているところです。

市長

では英語教育のことですが、アキ先生をお招きした効果についてお願いします。

学校教育課長

英語教育のアキ先生をお招きした効果と来年度の課題についてですが、一学期中の授業内容ですが、小学5・6年生が使っている教材を発展させた内容で授業をおこなっていただいています。具体的には、色が出てきたり動物が出てきたら絵を描いて色をつけて1つの絵本にして発表させる、あるいは家族の紹介とか年齢とかが出てきますので、家族を描いて『厳しい』などの形容詞をつけながら家族紹介するような授業をしました。内容としては教育課程に基づいた内容で、その辺はしっかり教材に基づいた内容の授業です。学校

にアンケートを取りましたが、子どもたちが楽しみながら授業を受けられている、英語が苦手な子どもが楽しそうに取り組む姿勢があった、グループ活動を多く取り入れて楽しむのが要因かも知れない、等が寄せられています。

ただ先生たちとしては、今後二学期からは学校の先生が主体でアキ先生がサポートになりますので、そのことに対して多少不安を感じているようです。そういった不安を解消するために一学期はアキ先生の師範授業を各校で行いながら徐々に範囲を広げていく手法をとって、アキ先生の手法を見ながら2週間に一度担任主導の授業を行います。ただ二学期からは3週間に一度全ての学校を回るスケジュールになっています。一学期は打ち合わせの時間がなかなか取れなかったため、二学期は授業日とは別に打ち合わせの日をとって事前に打ち合わせをして授業に臨めるような体制をとっていきます。

ただ来年度は文科省のいう移行期間になっていまして、アキ先生は今年度いっぱいでするので、来年度以降どのように対処するか、が課題です。県のほうでは研修の強化しか打ち出せていない状態ですので、茅野市としては少なくとも今年度と同等の体制が取ればありがたいと思っています。以上です。

市長

いくつかの学校の授業のビデオを見させていただきましたが、子どもたちが楽しく学んでいるのを感じました。アキ先生のキャラクターによるところも大きいと思います。二学期は教師の指導力アップに主眼を置いた取り組みをしていくということです。

小平委員どうぞ。

小平委員

豊平小学校でアキ先生の授業を拝見しましたが、非常にリズムカルでスピード感があって、子どもたちも大変楽しんでいるとは思いましたが、一方で先生が付き添うほどではないけれど少し支援が必要な子どももいて、アキ先生は授業が中心ですので、二学期からはそういうところを先生が自分の裁量で見えていかなければいけないのは大変だろうと思いました。校長先生・教頭先生が補助で回っていましたが、少しだけ心配りが必要な子どもが数人いるクラスが大変だと思いつきながら見てきました。以上です。

市長

授業に限らず言えることではあると思います。教育長からはどうですか。

山田教育長

英語の授業に限らず言えることで、支援が必要な子どもに先生がどれだけゆっくり〜〜した教育を担当ができるか、茅野市の場合は40数名の特別教育支援員をづけてフォローしていてもまだ回っていかないというのが現実です。私たち自身が検証していかなければならないと思います。

そしてもう1つ、アキ先生は非常に有能な先生ですが担任ではないということ、アキ先生の授業を学びながら担任教師は段々と移行しつつ子どもの支援も考えていく。今はどのクラスにも支援が必要な子どもがいるので、そのために市教委は必要な支援をおこなって

いきます。

もう1つ、2030年から段階的に英語以外でも移行措置が始まるのですが、例えば英語の授業数が年間15時間だったのが70時間に一気に増え、その内容も「読む・書く・話す」となり、子どもたちにとってはとても大きな負担になります。移行措置を1年先取りでおこなうことによって英語嫌いをなくして英語好きにして負担をなくしていく狙いがあります。

移行措置を上手く進めていかないと、数年間で授業時間が大幅に増えていけば支援が必要な子どもはますます大変になってきます。そうした意味で一学期はアキ先生が中心になって英語に抵抗のない子を作っていこうとしています。発達障害の子どもは英語に限らず支援が必要なので、考えていこうと思います。

市長

アキ先生の授業の正直な感想はありますか。

学校教育課長

辛口の意見では、授業のレベルが少し高いのではないか、という意見の先生もいらっしゃいました。色々なアイデアがあるのでそれを教えてもらって教材としていきたい、という意見もあります。

とても友好的な意見が多いです。授業や生徒指導についても学ぶことがたくさんある、等です。ただ、コミュニケーションがアキ先生は英語と片言の日本語ですので、英語が話せる先生はいいのですが、そうでない先生は苦勞しているところもあるようです。

市長

教育長は校長もしていたし、感想はどうか。

山田教育長

昔と違って今の英語教育は待ったなし、いやでもやらざるを得ない状態。

永明小学校の校長先生の話では、アキ先生が入ってくれて15分間の授業をお互いに公開するようになってから先生たちの意欲がとても出てきた、とのことでした。日本語指導員の中沢さんもそのように言われていました。英語の授業では茅野市は得をしたと思います。

小平委員

確かにレベルは高いと思います。でも楽しさを感じる面ではすごく刺激になってよかったですと思いました。授業を見ていて自分も楽しくなって学びたいと思うくらいで、英語でコミュニケーションとれるのを子どもたちが直に感じられるのはとても刺激になると思うし、先生方も良い刺激になったと思いました。先生方が自分のスタイルに変えながらアキ先生の授業の楽しさを子どもたちに伝えられれば、と思いました。

市長

意味はよくわからなくても楽しんで授業を受けられるのがいい。

小平委員

先生方それぞれの個性というか、支援が必要な子どもも生き生きと授業を受けているクラスもあれば、あまり上手くいかないクラスもありましたね。

山田教育長

以前は先生の実力の差と言われたが、個性として捉えてもらって、上手く活かして授業をできればと思います。

小平委員

先生それぞれの個性を活かして授業に活かしていただければ、と思います。

市長

小中一貫教育について他にあればお願いします。

小林委員

私も授業を参観しまして、アキ先生の授業は少し課題が高いジャンプの授業が続いていると思いました。他の時間で普通の授業があってもいいかと思ったのと、家族紹介の時に猪がペットの子どもがいて英語で何というか分からず、先生が自身のスマートフォンで検索していたので、先生が英語の授業で利用できるICTなど、活用できるものがあってもいいと思いました。先生が全て分かっていて答えられればいいのですが、子どもの思いつくことは突拍子もないことだったりするので、そのような活用の仕方でもできれば、と思いました。ご検討をいただきたいと感じました。

矢崎委員

大事なことは、耳を慣らすことだと思います。意味はよく分からなくてもアキ先生のようにシャワーのようにたくさん聞かせるのが大切で、先生がどのようにその環境を作っていくか、ICTなど使いながら耳を慣らしていくのが大切だと思います。

小林委員

教育委員になった時から思っていたのですが、保育園の時から英語に耳を慣らす活動をしてほしい。次の定例会議で活動内容をお聞きすることになっているのですが、耳で聞くことが一番大切とおもっていて、保育園児の耳の良さは素晴らしいものがあると感じるので、聞くことだけでもできる環境を作ってほしいと思いました。

市長

小林委員からご意見がありました。それも含めて次の議題、2 将来的な見通しについて、に入りたいと思います。

お手元の資料2の体系図、茅野市では来年度からスタートする第5次の総合計画の策定を進めているところで、その中で大きな政策があります。保健福祉、環境、子育て教育、産業経済、都市基盤、行政系の6つの大きい柱があります。その中で子育て教育のところ

でどのような取り組みをしていくかを表したのがこの体系図です。

教育大綱の中の、幼児教育の充実・学校教育の充実、これを受けていくのがこども・家庭応援計画であり、それぞれのハードの部分での整備であり、となくなっていきます。このこども・家庭応援計画の中に直接位置づけられるのか、今ありました英語教育をどうしていくか・ICT教育をどうしていくか等々の課題があります。生涯学習のほうでは仮称ですが生涯学習推進指針という傘があり、その下に個別の計画があると位置づけて、計画を進めていく体系になっています。その中で英語教育をどう進めていくのか、ICTの取り組み、これは教育分野に限らないのですが、教育におけるICTの活用をどうしたらいいか、を意見交換したいと思います。

今小林委員からありました、英語教育の進め方についてご意見をお願いします。保育園での取り組み状況は？

幼児教育課長

体操や音楽が流れる活動の中で積極的に英語の曲など使いながら、違和感なく自然な形で進めています。今年ちの保育園にロングメントの方が訪問する際、永明中学校の校長先生が英語の先生だったこともあり、訪問前にALTの先生と一緒にちの保育園で自己紹介の仕方などを少し教えてもらったりしたのですが、外国人のALTの先生には初めのうちは固まってしまっていました。それで外国の方に慣れて、ロングメントの方が見えたときは違和感なく交流を進めることができましたので、機会があれば保育の活動の中に取り入れたいと思いました。

市長

横内保育園での英語の先生の活動はどの位のペースで行われているのか。

幼児教育課長

月に1回です。外国人のお母さんに英語の絵本の読み聞かせをしていただくような活動をして触れ合うようにしています。

小林委員

あまり難しく考えず、保育園の先生方にももっと気楽に考えていただければと思います。リズム体操で聞くだけでも充分耳に入ってくると思います。先ほど矢崎委員さんが言われたとおり耳に入るのが一番英語の上達にいいと聞いています。そのように活動していただければと思います。以上です。

矢崎委員

今は幼児用に作られた英語の教材がたくさんあるので、保育園でも楽しみながら活用したらどうでしょうか。

幼児教育課長

保育の流れもあるので、『英語の時間』というように時間をとるのは難しいのですが、リ

ズム体操で曲を流すなどで積極的に取り入れていって、普段の生活の中で英語だけでなく多文化に触れ合って言葉が出てくる体験ができればいいと思っています。

山田教育長

付け加えると、先ほども小中一貫教育の中で出てきましたが、教師は英語の先生以外でも大学で授業をとっていますが、保育士の方は大学で学んでいない中で預かっている園児の英語に責任を持つのはかなり負担だと思います。ですので、使えそうな場面で少し英語の曲を流すなどで触れていけばいいのでは。他の方法などあればアドバイスいただきたいと思っています。

市長

幼児教育がその後に繋がる、ということですね。

ではICTについてありますか。テレビ会議もそうですが、学校教育のほうでの構想はどのようなものですか。

学校教育課長

今年度はテレビ会議システムの導入と、そのシステムの回線が今のものは不安定なので回線の工事まで今後実施計画で出していく予定なのですが、それまでの間は携帯の電波の回線を使ってテレビ会議等整備していく予定です。予算付けもされます。来年度以降については各教室のテレビや実物投影機を皮切りにタブレットや学校の校務支援のシステムを整備していく予定になっています。ただ県のほうの「ICTを活用した質の高い学びの実現プロジェクト」計画も発足しまして、茅野市もそのメンバーに入っています。

その中で、長野県下のICT整備がかなり遅れている状況で県も危機感を持っていて、プロジェクトチームを発足させて、ICTの環境整備をどのように進めていくか、どのように普及させていくか検討している最中です。そのような県の施策を取り入れたものにしていこうと考えています。ソフトのほうは用意ができています。ハードのほうは県と足並みをそろえていくのが良策と思われるので、調整しながらおこなっていこうと思います。

市長

ICTを導入することで大幅に先生の負担軽減されるようなことが狙いだと思うが、そのために必要なことを順序立てて導入していくことが重要。

学校教育課長

県としては県下一斉に開始する計画で、来年度からの予定で調整中です。そうすることにより先生が異動先でも同じ環境でスタートでき、市町村の調達コストもスケールメリットで少なくなると考えられます。

山田教育長

問題点の整理をします。1つは先生方の負担軽減、課長のお話にあった公務の支援システムを全県でおこなっていく、もう1つは教育の部分で、今考えているのはどんぐりプラ

ン等 10 年の計画、その中で来年度からの茅野市の I C T 教育を第 1 期として位置づけて 3 期の計画で考えています。1 期の計画の中で県の動向と歩調を合わせるのはタブレット等の電子機器の導入に関して同一線を引くためもあります。ただ、指導内容等は先取りしていきます。

一番の狙いは I C T の機器の活用ではなくプログラミング教育による思考判断表現力の育成で、茅野市の場合は先行して理科大の先生にお願いして、それを基に来年再来年というように 3 年間で第 1 次計画として今行政と校長先生とが考えているところです。

市長

企画は第 5 次の中で I C T 戦略の計画を作ることだと思う。その中の教育の部分の位置づけになると思うが、しっかり連携して行ってほしい。学習障害の子どもにタブレットを活用することで更に寄り添えるのなら積極的に先行して導入していくなどの取り組みをしていくことで計画作りを進めています。定例教育委員会の会議でもご意見をいただければと思います。

もう 1 つが市立図書館の見直しについて、具体的には。

生涯学習部長

図書館の方向性を茅野市としてどういう形にしていくかがあるのですが、公民館の建て直しも将来的にあるので、その時に総合的な学習センターのようになって、公民館もあって図書館もあってという理想のスタイルがある中で、図書館の在り方を考えていかなければと思うのですが、図書館には夢が必要で子どもたちが足繁く通いたくなるような形にしたいのですが、今の図書館では限界があり、将来的にどのようなスタイルの図書館にしていくのか夢を持ってもらい、広く図書館の未来像を持ってもらいたいと考えているところです。教育委員さんのご意見をいただければと思います。

市長

5 月にロングモントの図書館に行ってきた、特徴的で面白いところと思いました。特に子どもに対しての見せ方がアメリカ独特のスタイルだと感じました。今回教育長も行ったので感想をお願いします。

山田教育長

システム的には茅野市のほうが上手くいっていると思いました。ロングモントの方は多国籍文化なのでさまざまな国の言語の本がたくさん置いてあり、茅野市にも外国籍の方が多いのもっと外国語の本があってよいと感じました。そして利用者の層の違いがありました。学んで研究していく雰囲気伝わってきました。中年・中高年が多かったです。茅野市は開館時間の延長など 1 つの試みですが、利用者層を変化させていくことを考えていくのもよいかと思います。長野県立図書館が大改革中で、地域の情報拠点化をするとのことで方向を変えているようです。参考にしながら茅野市にとっての図書館の位置づけをどうするか考えるのも必要だと思います。

市長

茅野市も図書館の情報拠点化は取り組んでいました。

生涯学習課長

「本の図書館から情報の図書館へ」のスローガンで10年前から取り組んでいます。

市長

今回は資料があまり無いので、次の総合教育委員会の課題の1つとしたいと思います。皆さんの考えをまとめておいていただきたいと思います。

もう1点の教職員の負担軽減・業務改善についてお願いします。

山田教育長

報道にもありましたように、小学校教諭が60～70時間、中学校教諭が80時間の超過勤務をしています。茅野市は昨年度から業務改善・働き方改善ということで、6月市議会でも報告しましたが、小学校教諭は50～55時間・中学校教諭は70～72時間、と減らしてきています。県も同じ課題ですがこれ以上は限界です。従来業務から時間を減らす考え方から新しい学校システムへの転換が必要となっています。県も同じように考えていて、最終的には超過勤務を45時間にしたいとしています。が、システムを変えないと難しい。市町村教育委員会と県教育委員会と一緒に考えていこうと動き出しています。

茅野市の持っている強みは子どもの相談支援体制が福祉・教育の両面でかなり進んでいる点で、幼児教育課・こども課・学校教育課に発達支援センターを含めての相談支援体制がかなり強化されている、例えば学校生活に悩んでいた発達障害の子ども生徒指導・生活支援がかなりいい方向に進んでいっている。現在他市町村でこういった支援体制が整うのに1週間以上かかっているところが、茅野市は早ければ半日、遅くて1週間で整います。

もう1つ、公民館のほうから挙がっていましたが学校教育との連携ですが、こども課や幼児教育課とも連携しているのですが、コミュニティスクールを組み立てていく中で、公民館活動との連携を図りながら他地区に無いものを創り上げられるのではないかと、新しい学校システムの創造へと繋がっていくのではないかと、と思います。

市長

新しい学校システムを具体的にいうとどのようなものですか。

山田教育長

先生方の教える部門と生徒指導の部門、事務的な手続きの部門を切り離すということです。例えば発達障害を持つ子どもに発達支援センター・スクールカウンセラー・家庭等さまざまなところが関わっているのを、学校に負担をかけずに市教委が1本化して進めていく。3つの課の相談支援体制が上手く機能していると思うので、学校の業務から枝分かれさせていくようなイメージです。

市長

委員の皆さん方からご意見何かありますか。

矢崎委員

各地区のコミュニティセンターがありますが、学校との関わりや機能はどうなっているのかお聞きしたい。ゆいわーく茅野は人がたくさん来ているが、コミュニティセンターは各地区にあり、上手く機能すれば生涯学習などの活動ができると思うのですが。

山田教育長

各地区のコミュニティセンターは主に事務をしています。今後の改革の中で協力していただきたいと考えています。

矢崎委員

地域の事をききたいような時にコミュニティセンターでお聞きして、繋げてもらっているようなことは聞いています。

生涯学習部長

学校の横にコミュニティセンターがある地区は連携しやすいのですが、宮川のように離れていると少し難しいです。真横にあれば教育もしやすいし、寺子屋のようにコミュニティセンターで関わりを作っていくのもしやすいと思います。そういったところから少しずつ学校運営の中に入れていければ、と思います。

市長

校長先生の中でのコミュニティセンターはどのような存在でしょう。

矢崎委員

他市町村から来た校長先生だと、コミュニティセンターのことがよく分からないと言われることもあります。

山田教育長

コミュニティセンターができた経緯、現状、建物等の将来的なものなど含めて理解してもらうのが必要かと思います。

市長

他にありますか。ないようですので以上で議事を終了します。

学校教育課長

ありがとうございました。

以上をもちまして、茅野市総合教育会議を閉会します。